

看護学部紀要の発刊によせて

2012年4月、摂南大学に第7番目の学部として、看護学部が設置されました。設置に際して各方面の皆様にご多大なご協力を賜り厚くお礼申し上げます。お陰様で新学部は順調に成長しています。1学年の学生定員は100名という、本学で最も小さな学部ですが、この学部の誕生は、総合的な知のネットワーク化を目指してきた本学にとって極めて大きな意味をもっています。

看護の本質が何であるかを軽々に論じることにはできませんが、本学が大事にしてきた豊かな人間性と高潔な倫理観は、看護学部においては根底を支えるとりわけ重要なものだと思います。看護は、出生前を含めて人の一生に係るものだとすれば、看護学は可能性として、人が係るすべての分野を含むことになります。実際、看護学の文献を垣間見ると、その扱う内容がいかに広範で多岐にわたり、日本でも外国でも、文献がほとんど無数にうみだされていることに驚かされます。看護学の専門ジャーナルも多様で高度に細分化されており、内外ともに夥しい数にのほります。そのような状況の中で、このたび本学の看護学部で創刊された研究紀要には何が期待されているのでしょうか。

本学の看護学部は、薬学部との相互協力を通じて、地域医療とも連携し、実践能力が高く、さらにクスリのこととも理解した看護職者を育成し、高度化する医療体制の確立に貢献することを目指しています。本学では、実は、この2学部間の協力を超えて、理工学部をはじめとする本学を構成する7学部すべてとのシナジー効果を当初から期待しています。現代社会においては、あらゆるものが急速に大きな変化を起こしています。このパラダイムシフトの時代に専門を究めるには、既存の分野の境界を超える広い視野をもっていることが前提条件になっていると言っても過言ではありません。また、総合大学としての本学の特性のみならず、本学が置かれている『地域』の医療機関等との連携にも注意を向けることで、本学らしい特色を活かした研究・実践の方向には大きな可能性が秘められているに違いありません。優れた個性をもつ本学の看護学部が独自の研究紀要を設けることは、本学の看護学部が本学ならではの教育研究環境と人的資源をうまく活かして、国の内外に新しい知見を発信する一つの大きな役割を果たしていくものと確信いたしております。

看護学部スタッフの教育・研究活動の発展を祈念しながら、紀要発刊によせる挨拶といたします。

2013年3月

摂南大学学長 今井光規

